

2021 年度地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム マッチングイベント

「ひきこもり等の生きづらさ支援のあり方を当事者と共に考える」

提案背景: 80 歳代の親が、50 歳代の子どもを扶養せざるを得ない家庭が 2020 年代後半に向けて、急増する社会問題を 80-50 問題と言われ社会的課題となっている。

本現状を受け国の政策として、骨太の方針(就職氷河期世代、ひきこもり等の支援)、改正社会福祉法の施行等省庁を横断して、支援活動に取り組みられるようになった。(民間においても就労支援だけでなく、居場所などの支援、またピアサポーター活動が活性化されつつある。)

がしかし・・・ 現場では、下記の課題が起こっている。本現状を広く周知することを通じて、皆さんと共に支援のあり方を考えていきたいとの思いから提案に至った。

(当事者側 本人/家族等)

- ・地域によっては、甘え、怠け、存在が怖い、親の育て方が悪いなどの地域社会のひきこもり等の生きづらさに対する偏見・無理解がいまだに根強い。【負のイメージ】
 - ・自身の回復のために、何を、どこに、どのように相談して良いのかわからない。 【相談窓口の不明化・周知不足】
 - ・勇気を持って支援機関にいっても、親身な対応をしてもらえず、たらい回しされるなどますます社会/支援者に対する不信感を持つことがある。 【支援のミスマッチ】
- (※安心して地域に出て行ってみたいと思える状況にはなっていない。) など

★ コロナ禍になり、課題等はますます複雑多様・長期化してきている。福祉 → いのちの問題に直結してきている。

(支援者側)

- ・縦割り行政(支援/相談体制)の為、家族丸ごと支える仕組みがない。 ※ 家族も生きづらさを抱えた当事者であるという認識の欠如
- ・地域住民への偏見をなくしていく取り組みが十分できていない。 など

本セッションゴールイメージ

①. ひきこもり等の生きづらさを抱え社会的孤立・無援状態にある本人・家族への理解深まる。②. 当事者ファーストの支援のあり方を考えるきっかけとなっている。

本セッション内容

・提案団体の活動紹介を通じながら、ひきこもり等の生きづらさを抱え、社会的孤立無援状態にある本人・家族を、地域でどのように共存していけばいいのか、考えるヒントが得られる内容となっています。

本セッション参加対象者イメージ

・実際に、ひきこもり等の生きづらさ支援を行っている実践者(立場問わず)・テーマに関心のある方ならどなたでも。

本シートを見てくださった皆さんへメッセージ

・本シートを見ていただき、誠に有難うございます。また生きづらさ支援に関心を持ってもらい嬉しいです。会場で、実際お会いできることを楽しみにしています!